令和4年度第1回前橋市総合教育会議 会議録

日 時 令和4年7月14日（木） 午後3時00分から午後4時5分まで

場 所 市役所11階北会議室

(市長)

山 本 龍

(教育委員会)

教 育 長	吉 川 真由美	教育長職務代理者	奈 良 知 彦
委 員	畠 山 正文	委 員	高 濱 正 伸
委 員	木 村 素 子		

(事務局)

教 育 次 長	藤 井 一 幸	指 導 担 当 次 長	都 所 幸 直
総 務 課 副 参 事	高 橋 雅 人	教 育 施 設 課 長	木 村 一 弥
文 化 財 保 護 課 長	上 野 克 巳	学 校 教 育 課 長	相 原 吉 次
前 橋 高 等 学 校 事 務 長	伊 井 直 文	生 涯 学 習 課 長	関 口 知 子
青 少 年 課 長	内 山 崇	総 合 教 育 プ ラ ザ 館 長	金 井 幸 光
図 書 館 長	齋 藤 明 子		
未 来 創 造 部 長	青 木 一 宏	交 通 政 策 担 当 部 長	細 谷 精 一
文 化 ス ポ ー ツ 観 光 部 長	新 井 剛	文 化 国 際 課 長	田 中 力
都 市 計 画 部 長	飯 塚 佳 雄	都 市 計 画 課 長	宇 田 正

指導担当次長	<p>これより令和4年度第1回前橋市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>本日、進行を務める前橋市教育委員会事務局指導担当次長の都所でございます。会議は、1時間程度となりますのでよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、山本市長からごあいさつをお願いいたします。</p>
市長	<p>本日は、第1回前橋市総合教育会議に、各委員の皆様にご参加いただき、ありがとうございます。また、今回から、木村委員と畠山委員をお迎えすることとなりました。各委員の皆様で闊達な議論をしていただき、色々な見識を基にして、前橋の教育の形を導いていただければと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
指導担当次長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、協議事項に入らせていただきます。</p> <p>本日の議題は、「前橋市教育振興基本計画について」と「文化財の保護と活用～文化財に親しみ、郷土への愛着の心を未来へ継承～」の2つです。</p> <p>まず、教育長より一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>そのあと、1つ目の「前橋市教育振興基本計画について」、計画策定に向けた現在の状況を報告いたします。続いて、2つ目の「文化財の保護と活用～文化財に親しみ、郷土への愛着の心を未来へ継承～」について、説明した後、意見交換をお願いいたします。</p> <p>それでは、教育長、よろしくお願い申し上げます。</p>
教育長	<p>皆様ご存じのとおり、総合教育会議は、市長と教育委員会が意思疎通を図って、教育のあるべき姿を模索する、共有する大切な機会となっております。今、指導担当次長から話がございましたとおり、本日は2つの議題がございます。1つは、「前橋市教育振興基本計画について」、これは今回報告をさせていただきます。もう1つ「文化財の保護と活用について」は、本市における文化財の保護と活用について、現在の取組状況や課題を説明させていただいた後、文化財の保護と活用を通じ、市民や子供たちの郷土愛を育む環境づくりについて、それぞれのお立場やご経験を踏まえたご意見ご要望をお聞かせいただきたいと思いますと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
指導担当次長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、「前橋市教育振興基本計画について」、計画策定に向けた現在の状況を教育次長から報告させていただきます。</p>
教育次長	<p>教育次長の藤井です。それでは、本日の1つ目の議題、「前橋市教育</p>

振興基本計画について」、現在の策定に向けた検討状況を報告させていただきます。報告させていただく項目は6つの項目となります。

前橋市教育振興基本計画は、本市の最上位計画である、第7次総合計画とも整合する計画とする必要があることから、この総合教育会議の場において、計画の検討の方向性及び概要について報告させていただくものでございます。

計画は、教育基本法第17条第2項に基づき策定する計画でございます。策定にあたりましては、国の教育振興基本計画を踏まえて作成することとされております。本市では、2013年度から2017年度を第1期計画期間として策定し、2018年度から2022年度までの5年間を第2期計画期間として策定いたしました。今年度末で第2期の計画期間が終了することから、第3期の策定に向けて検討を進めているところでございます。

今回、本市の計画期間は、6年間といたします。6年間とする理由でございますが、これまで国の計画期間と重なっていたことから、国の計画を参考にしづらい面がございました。今回6年間とすることで、次期計画策定においては、国の計画期間と1年ずれることになり、国の計画をより反映しやすくなります。なお、3年終了時点で中間評価を行うことを想定しております。

第2期計画策定時と現在の本市の教育を取り巻く状況の主な変化について説明をいたします。1つ目は、ICT利活用基盤の整備状況です。特に学校におけるICT利活用基盤は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、GIGAスクール構想の前倒し実施によりまして、飛躍的に整備が進みました。本市では、令和2年度末に一人一台タブレット端末の整備が完了し、前橋市学校教育情報化推進計画に基づき、現在活用に向けた取組が進められております。

2つ目は、多様な人が活躍する社会に対する認識の変化です。これまでも、性別、年齢、障がい、国籍、性的マイノリティなど多様な人がお互いの良さを認め合う社会の実現が求められてまいりましたが、実現に向けたより一層の取組が求められております。

3つ目は、子育てをめぐる環境の変化です。コロナ禍の影響もあり、子供が「見る」、「聞く」、「味わう」、「嗅ぐ」、「触れる」といった直接体験をできる場面が不足していることや地域とのつながりの希薄化、保護者の多様化など、子供たちを取り巻く環境は様々となっております。将来の予測がより一層困難になる時代に主体的に生きていく術を子供たちに身に付けてもらう必要があります。

また、少子高齢化による人口減少、教職員の多忙化解消、教育施設の老朽化など様々な課題があります。老朽化が著しい図書館につきましては、新本館建設に向けて基本構想の策定を行ったところでございます。第3期の計画策定にあたりましては、これらの現状を確認しながら、本

市において取り組む必要がある施策を整理してまいります。

計画の構成についてご説明いたします。第3期計画は、第2期計画におきまして「前橋の教育が目指す人間像」として定め、さらには、令和3年3月に本市の「教育の大綱」として定めた「多様な人と協働しながら、主体的・創造的に社会を創る人」を育成するための計画です。

このことから、次の3つの基本的な考え方にに基づき、第2期「前橋市教育振興基本計画」の構成の見直しを行いました。1つ目は、第2期計画において、人づくりの方向性として示した4つの方向性の考え方、理念を引き継ぎます。「個を伸ばす」、「認め合う」、「創り出す」、「未来へ」という4つの方向性は、市の第7次総合計画の考え方とのつながりを踏まえて整理したものでございます。2つ目は、毎年度「教育行政方針」として定めておりました学校教育分野、青少年教育分野、社会教育分野、環境整備分野の分野別の具体的施策を「教育振興基本計画」の中に位置付けるものでございます。3つ目は、計画に位置付けた具体的施策に、数値目標を設定し、実施した施策による成果、達成度や進捗といった数値が示せるようにいたします。

なお、計画に位置付ける施策につきましては、「多様な人と協働しながら、主体的・創造的に社会を創る人」の育成を目指す上で、計画期間において、重点的に取り組む必要がある施策といたします。

以上の考えに基づく整理を行うことで、第七次前橋市総合計画との整合が図られ、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、法律に基づき実施する点検及び評価との連動がしやすい計画を策定いたします。

これまで説明して参りました第3期計画の構成と現在の第2期計画の比較を示したものがこのような表の形となっております。

冒頭説明いたしました国の計画につきましては、現在、中央教育審議会の教育振興基本計画部会で審議がされているところでございます。審議依頼事項においては、「デジタル」と「リアル」の最適な組み合わせや共生社会の実現を目指した学習を充実するための環境づくりといった項目が挙げられております。また、群馬県におきましては、現在第3期教育振興基本計画の計画期間中ですが、新・群馬県総合計画において、今後の群馬が目指す教育が示されております。本市の計画策定にあたりましては、これらの国の審議状況や県の動向も踏まえながら、計画の策定を進めてまいります。報告は以上でございます。

指導担当次長

引き続きまして、「文化財の保護と活用～文化財に親しみ、郷土への愛着の心を未来へ継承～」について、教育次長から説明させていただきます。

教育次長

それでは、「文化財の保護と活用～文化財に親しみ、郷土への愛着の

心を未来へ継承～」について説明をさせていただきます。

最初に本日の協議事項を確認していただいた後、目次に従いまして本市の文化財保護課の置かれている状況・課題・今後の取組等を説明したいと思います。お手元に配布してございます資料とスライドをご覧になりながらお聞きください

本日、お集りの皆様には「文化財の保護・活用を通じ、市民や子供たちの郷土愛を育む環境づくりについて」ご意見を伺いたいと思いますので、そこに主眼をおいて説明を聞いていただけたらと思います。

それでは、まず、「はじめに」ですが、文化財保護課では、「文化財を保存し未来に継承することにより、市民が郷土に対して誇りと愛着をもち、個性ある地域づくり・ひとづくりを実現すること」を目指しております。また、「子供たちが文化財について学び、郷土への関心・愛着の心を持ち、未来に繋いでいくことで郷土への愛着が受け継がれていくことから、文化財に触れ、学ぶ機会を提供していきたい」と考えております。

次に「本市の文化財」について簡単に紹介させていただきます。最初に、「本市の文化財」を紹介する前に文化財について簡単に説明させていただきます。皆さんは「文化財」というと古墳やお城を思い浮かべる方が多いと思います。しかし、文化財保護法の中では有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群の6つに文化財は区分されております。スライドにありますように、有形文化財は建造物や古文書、考古資料などモノとしての形がある文化財になります。また、演劇などモノとして存在しない無形文化財、地域のお祭りや風習などの民俗文化財、古墳やお城、動物・植物などの記念物といったように文化財は、非常に幅広い分野にわたるものとなっております。このことから、文化財は、地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにするうえで欠くことのできない市民共有の財産であるということが言えると思います。

続きまして、本市にある文化財について簡単に説明させていただきます。現在、本市には、スライドにありますように国指定重要文化財の「臨江閣」、国指定史跡の「前二子古墳」、国の天然記念物の「横室の大カヤ」や「岩神の飛石」などを含め、本市には353件の指定・登録文化財があります。この353件という数字は、あくまで指定・登録文化財の件数ですので、指定外の文化財や埋蔵文化財のように人目に触れずに地中に眠っている文化財も多数ございます。

続きまして、文化財保護課の業務について説明させていただきます。現在、文化財保護課には課長以下22名の職員が在籍しております。係は、文化財保護係と埋蔵文化財係の2係からなり、文化財の専門職員として採用された者はありませんが、大学で考古学や日本史学を専攻した職員が、課長以下9名、内訳は、正規職員が5名、任期付学芸員が1

名、会計年度任用職員が3名、この9名が在籍しております。各係の業務といたしましては、文化財保護係は主に文化財の保護、普及啓発、史跡等の整備、維持管理等の業務を行っております。また、埋蔵文化財係では発掘調査や開発工事に伴う事前協議等の業務を行っております。

続きまして、それぞれの係の業務内容の一部を簡単に説明させていただきます。文化財保護係の業務の一例といたしましては、普及啓発の一環として、職員が小学校などに伺い、前橋の歴史について学び、理解を深めてもらう出張授業がございます。また、維持管理については、本市には多くの史跡があるということは先ほども説明させていただきましたが、文化財を未来に継承するために業務委託により計画的な除草や伐採等を行っております。しかしながら、管理面積が広大であることから、適切な維持管理のため、文化財保護課の職員による草刈り、樹木伐採等の緊急対応も実施しております。ちなみに令和3年度は延べ44日、職員が草刈り等を行いました。なお、作業を行う職員の安全確保や事故防止のため、労働安全に係る専門機関が実施している刈払機、チェーンソーの法定講習を必ず受講しているところでございます。

続いて、埋蔵文化財係の業務の一部を紹介いたします。ウエイトの大きい業務といたしましては、公共開発や民間開発に伴う埋蔵文化財関係の協議や発掘調査がございます。一覧表にございますように、令和3年度は、開発工事に伴う埋蔵文化財包蔵地、これは文化財が埋蔵されている土地か否かというものでございますが、これの照会が2,895件、また、包蔵地内で民間開発をする場合の届出、これが文化財保護法第93条にあたりますが、こちらの届出が790件、試掘・確認調査を44件、立会調査を40件実施したところでございます。また、発掘調査につきましても令和3年度は、16遺跡、19,460㎡を調査しているところでございます。

この他、文化財保護課では、総社・元総社地区の歴史を中心に展示する「総社歴史資料館」、粕川地区の歴史を中心に展示する「粕川歴史民俗資料館」の2つの資料館を管理しております。また、臨江閣では見学案内対応や高崎市との連携文化財展等を実施しているところでございます。このうち、総社歴史資料館と粕川歴史民俗資料館での普及活動について説明させていただきます。まず、総社歴史資料館では、市内の小学4年生を対象としたリアル&バーチャル体験などを行っております。スライドにありますように、児童に総社地区内を流れる天狗岩用水掘削の様子を、タブレットを活用し体験をしてもらった後、スライドにありますように屋外において、実際に古代の土木用具、モッコを使った土の運搬やタコで土を固める、こういった体験学習をしてもらっております。次に、粕川歴史民俗資料館では、年2回企画展を開催し、関連する講座にも市内外から多数の参加者が来館しております。現在は、本年9月4日の日曜日まで「前橋の刀工と刀剣 ー前橋藩ゆかりの刀ー」と題して企画展を実施中でございます。企画展の講座では、座学だけでな

く、講師と実際に現地をめぐり、文化財を肌で感じてもらえるように努めております。

新たな取り組みといたしましては、今年度から児童・生徒向けに作成した文化財パンフレットを、市立小中学校の全児童生徒が持っているタブレットに配信しております。また社会の副読本につきましても、タブレットで見る事ができるようになり、本市の歴史を更に身近に感じてもらえるようになりました。今後は、現地説明会や展覧会等の案内も配信し、児童・生徒だけでなく保護者に対しても普及啓発を図っていきたいと考えております。その他にも体験講座として、チョコレートで三角縁神獣鏡を製作するなど、様々な方法で普及啓発を行い、楽しみながら文化財を知り、体験できるような取り組みを行っております

発掘調査現場では、発掘調査の成果を地域住民に知ってもらうための現地説明会も開催しております。発掘調査を実施したほとんどの遺跡は、調査終了後に開発工事で壊されてしまうため、現地説明会は、地下に眠る文化財を間近に見ることのできる「一生に一度の機会」となります。現地説明会を実施することにより市民の方は、地域の歴史への興味関心と文化財行政に対する理解を深めることができるものと考えております。この3枚の写真は、総社古墳群の現地説明会の様子です。寒い時期にもかかわらず、多くの見学者にお越しいただきました。参考でございますが、この時には地域住民向けと、歴史愛好家向けに対象を分けて説明会を実施しております。

なお、発掘調査を行った後には、必ず「発掘調査報告書」の作成が義務付けられております。その発掘調査報告書は、埋蔵文化財保護と考古学研究の両方において不可欠なものとなりますが、本市におきましては、国立奈良文化財研究所が運営する「全国遺跡報告総覧」というWEBサイトに、現在700件の発掘調査報告書等のPDFデータを掲載し、市民や全国の研究者に広く情報発信をしております。この掲載件数は、全国の自治体、大学、研究機関のうち、福岡市に続きまして、全国第2位となっております。後ほど時間がございましたら一度検索していただければと思います。

それでは、今後、文化財保護課では、どのような取り組みが必要であるかということで、文化財の保護と活用に関する諸施策を進めるには教育委員会事務局各課のみならず市長部局との連携も不可欠であると考えております。

教育委員会事務局各課の連携としましては、学校現場との連携が特に必要であると考えております。学校教育において文化財は、大きな可能性を秘めた教育的資産であります。例えば、学校への出張授業、体験学習、資料館等での学外授業、遺跡見学、教職員向け文化財講座等の教育活動への組み込みを、これまで以上に広く展開していく必要があると考えております。

また、都市計画、文化・観光部局等市長部局との連携も重要になって

まいます。例えば、都市計画部で策定を進めている歴史的風致維持向上計画に関与し、今後、臨江閣等を活用した歴史まちづくりを進められるような施設の維持・管理を行う必要があると考えております。また、文化スポーツ観光部や未来創造部とは、シェアサイクルを活用した史跡巡り案内の拡充などを行い、文化財の魅力の発信強化を図って行きたいと考えております。さらには、地域住民・民間との連携を図ることも重要であると考えております。

例えば、国登録有形文化財の活用事業を通し、文化財を将来に伝え、保存していくことの必要性を地域住民に伝えることは非常に重要であると考えます。また、今後は、DX等を利用した新たな活用方法の検討も必要になってくると思われます。例えば、これまで文書やデータで記録保存しか出来なかった開発工事により消えてしまった遺跡を、VR等で復元することができれば、誰でもスマホやタブレットで身近に体感することができるようになります。併せて教育振興基金、企業版ふるさと納税への寄附のPR強化を行い、文化財の維持・管理に対する財源の確保を図ってまいりたいと考えております。

続きまして、文化財の保護と活用に向けたいくつかの課題がございますので、ご説明させていただきます。改めて、文化財保護課の体制をご覧ください。現在22名の職員で業務を行っておりますが、文化財の適正な維持管理・研究には学術的な専門性がある職員の確保が必要と考えております。

ここに、隣接する高崎市および全国の中核市の文化財保護課職員のうち、専門的知識を有する職員数について、比較をした資料がございますのでご覧ください。本市は職員22名に対して、専門知識を有する職員は9名、割合は41%になります。高崎市は、職員72名に対して、37名、割合は51%になります、全国の中核市平均では、職員21.6名に対して、12.8名の専門職員、59%の割合となっております。そこで、さらなる文化財の保護・活用のためには、専門職員の確保に向けた取組を強化していく必要がございます。

文化財行政の基本は、地域に所在する文化財を正確に把握し、それぞれの内容・価値に応じて適切に保存・活用することです。そのため、文化財の価値を適切に把握し、市民に正しく伝えることのできる職員が必要になります。本市におきましては、人事異動に際し、庁内公募という形で異動を希望する職員の募集を行う制度がございますが、本市の職員の中には、そもそも大学で考古学を専攻していた職員が少ないため、応募につきましては、ほとんどございませんでした。しかし今年度につきましては、本市としては初めて正規の専門職の採用試験が実施されることとなりました。事務Iの歴史学・考古学という採用区分でございます。非常に大きな一歩と捉えております。今後、専門職員の配置と人員の拡充が図れば、これまで未調査となっている遺跡の調査・

整備・活用も図ることが可能となると考えております。遺跡や文化財を整備・活用することは、本市にとりまして必要なアイデンティティを確認し、新たなシンボルを形成していくうえで、重要な施策になると思われませんが、整備には多額の費用が必要となります。

そこで、次の課題として予算の問題が挙げられます。文化財関連の決算額につきまして、県内の中核市、特例市、正確には施行時特例市と言いますが、比較した資料がございますのでご覧ください。中核市である高崎市が突出して多くなっておりますが、太田市、伊勢崎市などと比べても本市の文化財関連の決算額は決して多くないことがご理解いただけると思います。

予算につきましては、適正な維持・管理を図るために必要な費用の確保に努めたいと考えておりますが、文化財としての価値を維持しながらの改修を要するため、専門業者への依頼等、通常の施設より、より多くの予算と時間が必要となってまいります。阿久澤家住宅や旧関根家住宅等の茅葺屋根の定期的な葺き替えや臨江閣等文化財施設の補修、さらには、総社古墳群や山王廃寺跡、女堀の整備等を行うには、多額の費用が必要となってまいります。このスライドは、大室古墳群の整備前と整備後の状況です。史跡整備には約5億円の費用がかかりましたが、各種文化財関係のイベントや古墳見学、また、市民の憩いの場として大勢の来場者が訪れており、市民が文化財を身近に感じる機会を提供することができていると思います。

最後に、文化財収蔵庫を含めた施設の問題が挙げられます。現在、文化財保護課は、総社町三丁目に事務室、鳥羽町に収蔵庫がございます。鳥羽町の収蔵庫につきましては、スライドにありますように、出土遺物を入れるコンテナが天井近くまで積み上げられている状況でございます。このコンテナは、発掘調査により毎年200～300箱増えております。これとは別に民具等の寄附を受ける場合もありますので、年々、収蔵スペースが減っている状況でございます。また、遺物の整理作業についても作業スペースがないため、収蔵庫の通路部分を使って作業を行っている状況です。これらの問題を解決するためには、事務室、収蔵庫、整理室、展示室が一体となった総合的な歴史博物館の設置が、将来的には必要と考えております。

以上、人員、予算、施設と体制面の整備には課題がございますが、少しずつ改善を図りたいと考えております。

最後に、まとめになりますが、文化財は、地域の豊かな歴史と文化を生き生きと物語るものでございます。文化財は、地域の歴史的・文化的環境を形づくる重要な素材・資産であり、市民のみならず国民共有の貴重な財産であるとともに、これらをとおして地域に対する誇りと愛着をもたらす精神的な拠り所となります。文化財保護課では、市民をはじめとする多くの皆様が文化財に親しみ、郷土への愛着の心を育くむ取組を

強化してまいります。そのため、基礎的な調査研究および情報の蓄積を進めるとともに、市民への情報発信を行ってまいります。説明は以上となりますが、改めて、本日は皆様に「文化財の保護・活用を通じ、市民や子供たちの郷土愛を育む環境づくりについて」忌憚のないご意見を伺えたらと思いますので、よろしく願いいたします。

指導担当次長 少し長い時間をとらせていただきました。説明をお聞きいただき、ありがとうございます。それではこの後、文化財の保護・活用を通じ、市民や子供たちの郷土愛を育む環境づくりについて、それぞれのお立場から、ご出席をいただいております皆様よりご意見を頂戴したいと思います。意見交換につきましては、教育長に進行をお願いいたします。

教 育 長 文化財の保護と活用について説明をしていただきましたが、文化財と一言で言っても様々な文化財があり、文化財保護課の業務も幅広いことをあらためて実感しております。文化財の状況、そして今後の取組や課題などを説明してもらいましたが、説明を聞いた感想をはじめに伺えればと思います。

 教育委員から先に伺ってもよろしいでしょうか。奈良委員、どんな感想をお持ちになりましたでしょうか。

奈 良 委 員 説明ありがとうございます。非常にわかりやすく、丁寧に説明していただきました。教育長がおっしゃるように、文化財は幅広く、これからの教育そのものもあるし、それから予算や人員のこともある。

 質問になりますが、今現在、前橋の子供たち、小学生や中学生に郷土愛や誇りを持たせるために、学校でどのような取組や仕掛けをしているかを聞かせていただけるとありがたいです。

指導担当次長 小学校では、主に3、4年生が市の勉強、そして群馬県の勉強を社会科で取り組んでおります。実際に色々なものを見学に出かけて行きますが、その中に、古い建物という項目があり、そういったものを見学コースの中に入れていきます。

 一例を紹介させていただきますと、4年生は、絹産業の学習を桐生を実例に挙げて取り組んでおります。市役所南側の桃井小学校の4年生は、その学習に絡めまして、まず、市役所駐車場北側にある下村善太郎初代市長の像を見学し、下村善太郎さんのことを学習します。その後、国道17号の広瀬川の橋のたもとにある、女工さんが書いた歌の碑を見学し、そこで絹産業について理解を深めていきます。さらには、日本で最初と言われております前橋藩の器械製糸場の碑を見学し、国道17号を渡り、旧安田銀行赤レンガ倉庫の役割を学び、中央商店街の小川屋さんに立ち寄り、絹織物について学習します。前橋の絹産業を古い建物を通

して学ぶことで、前橋はすごいところだということをおぼえて実感をする、こういった学習をしていると伺っております。

奈良委員　もう少しじっくりで良いので、3、4年生の社会の時間あるいは総合的な学習の時間の中で、郷土前橋を学習する時間を取っているのか、あるいは、遠足や社会科見学で時間を取っているのか、そのあたりの兼ね合いを教えてください。前橋市の各学校では、3年生になると社会科の時間で概ねこれくらい、遠足であれば、これくらいというのをお聞かせいただけるとありがたいです。

指導担当次長　3、4年生は社会科の時間で主に学習しています。5、6年生からは、日本全体の学習になってしまいますので、前橋市のことからは、少し離れてしまいます。6年生では歴史を主に学んでおりますので、そこで、前橋空襲などについて学びます。前橋空襲のことについては、6年生や3、4年生が使っている副読本にも書いてあったりしますので、そういったところで、前橋市のことについて、学ぶこととなります。

中学生につきましては、学校ごとによると思いますが、例えば、大室古墳を学びに行く中学校などもあります。

奈良委員　地区によって違うと思うのですが、総社町周辺は、古墳などすごいところがあるし、大室は大室であるし、また粕川とか宮城とかもあると思うのですが、そういうところに遠足などに行った際に、手に触れたり、実物を見たりすることはあるのでしょうか。

指導担当次長　実際に手に触れる機会は、小学校ではあります。例えば、4年生は天狗岩用水を見に行き、総社資料館を見たりします。ただ、段々に外に出る学習が減ってきてしまうというところがあるかなと思います。

奈良委員　私は、教室や社会科、総合的な学習など時間のとれるところで、郷土を学ぶ、前橋を知るということで、前橋の文化財をスライドや動画で興味づけると、そこから発展していく子供たちも増えて来るのではないかなという気がします。

指導担当次長　奈良委員がおっしゃったデジタル資料につきましては、前橋市の中学校の先生方にご協力いただきまして、昨年度完成しました。本年度から中学生の生徒用タブレットに入っています。前橋の様々な細かなデータが入っていて、すぐに学習に使えるように整えております。地域学習教材「デジタル前橋地域学習」という素晴らしい資料を中学校の先生方に作っていただきました。

奈良委員 是非、後で私にも見せてください。

高濱委員 見学だけだと、文化財自体はどんどん陳腐化して行って、抱え込む予算ばかりがかかり続けることになると思います。これだけ色々なものがあるときに生かすとすれば、子供のプログラムと組ませた方が良くと思いました。アウトプット時代なので、子供たちがアウトプットする何かを作る。

1つのアイデアとして、子供たちが各地区の文化財を発表合戦のような形式で発表して、アーカイブに載せる。勝ち抜くと30年間資料として残すと面白いかなと思いました。そのような教育プログラムを作れると良くと思いました。絹産業の中心的な街だったというところに行き着いて、子供たちが発表できるようになっていくと、上毛かるたと並ぶような文化財になるのではないかと思います。

アウトプットに持っていかないと、いわゆるPBLというか、そういうアイデアを結びつけていかないと、先生の話をしているようでも、全然頭が回らないので、生きたものにはならないのかなと思いました。

教育長 ありがとうございます。今の時代の子供達の力を伸ばすために、文化財を活用することは、とても大事ななと思いました。子供達にスライドや動画というお話がありましたが、資料22ページに、文化財保護課が作った「まえばしフィールドミュージアム」について記載があります。これは、非常に素晴らしいデジタルミュージアムみたいなものです。こういうものも子供たちが見て、まずは知ってもらうということも大事なかなと思います。委員の先生方も是非フィールドミュージアムをご覧くださいただければと思います。

高濱委員からのPBL、プロジェクトベースドラーニングについてですが、これからの生きる力を伸ばすために文化財をいかに活用していくかという視点もとても大事ななと、子供のプレゼン合戦の資料がずっと残っていくというのも面白いなと思いました。

畠山委員いかがでしょうか。

畠山委員 丁寧なご説明ありがとうございました。私は、臨床心理士をしていて、カウンセリングをする立場です。今、大人も子供も家族との関係がものすごく難しい。例えば、お父さんが大嫌いだとか、子供の頃にお父さんからあんなことされたとか、お母さんからあんなことされてこんなことになったとかをカウンセリングの中で訴える子がたくさんいらっしゃる。その方々が、長いことカウンセリングをしていく中で、ずっとお父さんのことが大嫌いだった方が、ある瞬間、例えば、夢でお父さんとある古墳で眺めた景色が浮かんで来て、そこから変わっていかれる。お父さんに連れていってもらった記憶を全く覚えていなかったけれども、

ある瞬間、ある風景が出てきて、そこからお父さんと色々行ったことを色々思い出されて、変わっていくという場合が時々あります。

そういうことからすると、一人一人の方々にとって、それぞれの方が持っているその地域の原風景があると思います。それを考えていくというのはとっても大切なことだなと思います。

先ほどの議論とも関わるかなと思うのですが、今日の話伺っていて、色々な取組をされていてすごいなと思ったのと同時に、前橋ってこれだよとか、前橋に来たらこれがあるとか、前橋の風景ってこれだよなというのが、何か1つ2つあると良いと思いました。さっきのカウンセリングの中の原風景と同じだと思うのですが、それが基盤になって、色々なものがつながってくる言葉でも風景でも良いと思います。市民への情報発信を考えると、そういう一本貫くものがあると、色々な施策がバラバラにならずに、前橋のイメージになっていくのだろうという感じがすごくしました。

教 育 長

ありがとうございます。前橋の風景がこれだというのが示せて、たくさんある文化財を何かの軸で横串をさせると良いのかなと感じました。

木村委員いかがでしょうか。

木 村 委 員

感想として、まず、専門職員の方が少ないということと、予算が少ないということは印象に残りました。なぜ職員や予算が他の市と比べても少ないのかということは非常に気になりました。

また、資料を見ますと、既に色々な取組はされていると思います。私自身は歴史研究をしております、自分自身は歴史が好きですが、学生に歴史のことを伝えるのはすごく難しいですね。苦手意識を持っている学生もたくさんいますし、なかなか一筋縄ではいかないと私自身も思います。先ほど他の委員からも出たように、自分で何か調べてアウトプットするとか、網羅的に何かをするよりは、何かこれというものだけを自分たちの街のアイデンティティとして持つというようなことをゴールにした方が良いのかなと私も思いました。

例えば、3ページの昔の衣装を着る様子や9ページのモッコというのを運んでいる様子を見たときに、運動会とかで、こういう競技を前橋の独特な競技として確立する。モッコは色々なものを使ったら、1つの競技にすぐ出来そうだなと思ったりしました。昔の服着て、走ってみたら、意外と涼しくて動きやすいとか、やはり不便だなとか、そういうのでとても印象に残ると思います。私は、県外出身者なので、前橋、群馬の運動会は赤城団とかに分かれるという特徴をすごく熱く県内の人に語られますが、こういった文化財と絡めたもので、THE前橋な競技があったら、コロナの時期ではありますが、地域の方や保護者が見てくださるので、子供だけではなくて、市民も盛り上がって、前橋といたらこ

れだよねと受け継がれて良いのかなと思いました。

教 育 長 良いアイデアありがとうございました。行って、見て、知るというだけでなく、自分で何か体験をして、身体の中に残していくということもとても大事なことだなというふうに感じました。

高 濱 委 員 木村委員の話を聞いて、モッコ大会も面白いと思いました。先ほどの私のプレゼン合戦のアイデアについては、アーカイブではなく、デジタル発表ですね。子供の小学校対抗、クラスやチーム対抗でも良いし、家族対抗で家族というユニットでどんどんアップして、それ自体が家族の思い出にもなるし、文化財の習得にもなるというのもアイデアかなと聞いていて思いました。

教 育 長 家族ユニットでやってみるというのも面白いですね。先ほどの畠山委員のご発言にもつながるところかなと思いました。

木村委員からアイデアについてもお話をいただいておりますけれども、これから文化財をより一層活用していく、また前橋の文化財をより多くの方に知っていただくための仕掛けづくりやアイデアがありましたら是非お考え伺えればと思いますが、いかがでしょうか。

市民の方からは、文化財は非常に面白いけれども、行きにくいところにもあって、自家用車やバスで行く以外に自転車、コグベでも行けると良いという声もあります。交通政策担当部長が出席されていますが、文化財と交通に関して、何かアイデアやお考えありますでしょうか。

交通政策担当部長 交通政策担当部長の細谷です。教育長からお話がありましたとおり、文化財を巡る際にバスでは行きにくい場合がある。また、車で行く場合も駐車場の問題や車の乗り降りなど、環境に影響を与えることもあります。身近に移動できる自転車、コグベという乗り捨て自由なシェアサイクルが稼働しておりますので、それを使って古墳巡りができれば良いなということで、文化財保護課とも意見交換を進めております。古墳群巡りでコグベと連動できると良いと考えております。

教 育 長 ありがとうございました。友達同士、又は家族ユニットでコグベに乗って周ってみるというのも良いのかもしれません。

都市計画部長も出席されていますので、前橋市の文化財の活用の方向性についてお話を伺えればと思います。

都市計画部長 都市計画部長の飯塚です。今、都市計画課では、前橋市の歴史的風致維持向上計画を作成しております。これは、話に出ております文化財の保存・活用、復元などについて、今年度、国から認定を受けられれば、

来年度から10年間にわたって様々な事業を組み込んでいるもので、現在、パブリックコメントを行っております。

来年度から事業を進めていくにあたっては、先ほど話がありました人員や専門職を増強していただけるとありがたいですし、組織的な話も今後出て来ると思うのですが、文化財保護課や文化国際課、観光振興課と連携を深めて、前橋市全体、重点区域に中心市街地にあたる厩橋地区と総社地区がなっていますが、そういったところを中心に進めていきたいと考えております。

教 育 長 ありがとうございます。教育委員会は、文化スポーツ観光部とも色々と連携させていただいています。何かございますでしょうか。

文化スポーツ観光部長 文化スポーツ観光部長の新井でございます。教育長からお話があったとおり、我々はどちらかというと、観光部門にしても、文化振興の部門にしても、文化財を活用させていただく立場かなと思っております。そういった意味でも活用するにあたっては、文化財をしっかりと守りながら活用していかなければならない。傷めてしまつては、元も子もないということもありますので、教育委員会ともしっかりと連携を取りながら、引き続きやらせていただきたいと考えております。

教 育 長 文化財を所管する教育委員会としては、しっかりと調査をし、維持をしていければと思っております。教育委員からご意見をいただきました。市長、本日の文化財の活用と保護について、ご感想又はアイデア等ありましたら、お話いただけたらと思います。

市 長 郷土の歴史的な価値は、大切にしないといけないのですが、この総合教育会議の中での議論とすれば、子供たちと教育の関わり、古い茅葺屋根がどうやって環境的につくられたのか、SDGsの理念などを教える教材としての取組や活用となれば、今あるものでも十分に子供たちに深い所を感じてもらえるような活用のテクニックというかメソッドというのでしょうか。そういう前橋らしいものを作って子供に提案できるのではないのでしょうか。

私は、そちらの方が子供の学びとか歴史に向かったの興味を子供たちに掴んでもらえるようなきっかけづくりにはなるだろうと感じております。たくさんある前橋らしい何か取組を教育委員会としてされたらいかがでしょうか。色々なことを感じて、子供たちに、その時々に戻ってもらえるようなきっかけづくりは、面白いことができるのではないのでしょうか。

教 育 長 ありがとうございます。文化財は、子供がなぜなのだろう、どうし

てなのだろうと考えるきっかけづくりにもなるのかなと思いました。今ある文化財で、少し見方を変えて、学び方を変えると、また新しい学びができるのかなというヒントも今日いただきました。教育委員の中からは、絹産業又は繭というものが、とにかく前橋の宝ではないかと、この辺をもう少し生かせたらどうかという話がありました。図書館には日本のどこにも負けないくらいの養蚕に関する資料もございますので、この辺を整理しながら、発信ができたらと思います。

以上で指導担当次長に進行を戻します。

指導担当次長 皆様、たくさんのご意見をいただきまして、ありがとうございます。予定した時間になりましたので、最後に先ほどお話を伺っておりますが、あらためて山本市長、総合教育会議のまとめとして一言いただけたらと思います。

市長 前橋は歴史的な遺物の宝庫で、そこにはその時々の人々の営みがあって、そのストーリーを感じてもらえるようにすることは、子供たちが教室の外に飛び出していけるような良いチャンスになるだろうと私は思っております。

決して歴史を学ぶということではなくて、昔は茅葺の家に住んでいたということを感じてもらえるだけでも、私は子供たちの関心を引き出せる良いきっかけになるのだろうと思いますので、是非教育委員の方々の色々な見識をアドバイスいただきながら、教育委員会として面白い、前橋らしい教育に取り組んでいただけたらと思っております。

指導担当次長 ありがとうございます。

それでは、次回の予定につきましては、協議すべき事項が出ましたら、総合教育会議を開催させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

指導担当次長 それでは具体的な議題、日程については、改めて事務局からご連絡を申し上げます。

以上で、令和4年度第1回総合教育会議を閉会いたします。

皆様大変ありがとうございました。

(午後4時05分)